
【ONE PIECE】末弟がマフィアのボスにされかけました【REBORN】

真尾坂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【ONE PIECE】末弟がマフィアのボスにされかけました

【REBORN】

【コード】

ZZ598M

【作者名】

真尾坂

【あらすじ】

エースとルフィがREBORNの世界で沢田綱吉の兄として生まれ変わる。平穀すぎる世界に突如やつてきた非常識で愉快な日常に二人は巻き込まれるのは必然だった。

注意：突如文章変更、設定変更の可能性あり。そしてキャラ崩壊気味です。

現在ネタ詰まりで更新遅いです。

プロローグ（前書き）

REBORNとOne pieceの混合になります。ルフィとエースにもう一人弟が出来てしまふので原作の兄弟関係を重視してい

る方には不快に感じてしまうかもしれません。

そして、設定上どうしてもツナ主体になるのでご了承の事をお願いします。

プロローグ

海賊王「ゴールド・ロジャー」の息子「ポートガス・D・エース」そして彼の義弟であり、もう一人の海賊王となつた「モンキー・D・ルフィ」二人の男は激動の世界を揺れ動かし、人々に大きなものを残し惜しまれつつこの世を去つた。しかし彼らの魂は滅びることなく、新たな世界で再び炎をともす事となる。

舞台は日本の並盛町

ボンゴレファミリーの真の後継者たる沢田綱吉の兄として二人の男は再び生きる事になる。

この物語はボンゴレファミリーといつ巨大な組織の子孫として生まれた沢田綱吉の成長と彼を取り巻く人物の一つのパラレルワールドの物語である。

本来いないはずの男二人が取り巻く事でボンゴレファミリーはどうなるのか

そして沢田綱吉がどう生きていくのか
それは誰にも分からぬ

プロローグ（後書き）

自分の血已満足でやっています。

こつちはギャグ主体で行こうと思つてます。しばらく進んだらバル

の方も同時進行でやつてこいつと並んであります。

下手くそ勝つ語彙力無無ですが勉強しつつやっていくので見守って

いてください、

変な赤ん坊来る（前書き）

リボーン登場です。エース中心回で何かシリアスです。マリンフォード編のシリアス寄りエースになつてるのでキャラがかしいですし分もおかしいです、すみません。

変な赤ん坊来る

「エース、一緒に帰ろうつーー！」

「ああ

しそうと笑いつつ、自分と一緒に帰ろうと誘う弟。その笑顔は前世とほとんど変わらない明るいもので自分をいつ何時も励ましてくれる。

世界政府に支配され、自由を求める人々が海賊になつた世界で大海賊時代を駆け抜けたポートガス・D・エースとモンキー・D・エースは平穀すぎる世界で再び生きていた。

理由は分からぬ、黄泉の世界で世界が無くなるまで冒険するのだと思つていたが世の中常識と言つ物が無いらしく気が付いたらこの世界に来ていた。

記憶を持つているにもかかわらず自分が愛した人々と別れ、この世界に来てしまつた事もあまりにも平穀すぎる世界に来てしまつた事も最初は苦しくて物足りなかつたが今は違つ。

この世界ではエースは生まれてきても良い存在だと良く理解した、そして前世の記憶を持つてなけれどルフィとの再会も出来た。

新しい弟の綱吉とその母親の奈々も自分をとても必要としてくれている。

だからこの世界で生きる事に何の不満もない、愛する人も幸せなら何もいらないとエースはそう思つていた。

この日が来るまでは

「奈々さん、これは何なんだ？」

「あの赤ん坊何なんだ！！もみあげすっげーな」

その前に突つ込む所があるだろーーと綱吉とエースはルフィに突っ込んだ。

エースは田の前にある現實に自問自答を繰り返す。

「これはあり得ないという物がほとんどない世界のはずなのにどうしてこんな事がある？」

夢だと思いたいがはしゃぐルフィの騒がしさを黙つと絶対にそれはあり得ない。

赤ん坊がモリモリと人の家で飯を食つている。

奈々さんの美味しい飯に何手を出してやがるといつか箸の持ち方上手すぎるだろ、以外にキチンとしてやがるな。

学校内最強レベルの大食らい故、どうでも良すぎる突つ込みがエースの頭をよぎる。

エースも突つ込む所が違うと思つがそこは突つ込まないでいただきう。

「あら、エー君とルー君おかえりなさい。この子はリボーン君つて言つてツナの成績が上がるまで住み込みで家庭教師する事になったの」

「本当か！？やつたーー！」

この家にやつってきたときと同じような優しくやわらかい笑顔で答える奈々と喜びを声と体で露わにするルフィ。何でも受け入れる懐の深い奈々と明るくて前向きなルフィには感謝しきれないがこの時ばかりは呆れを隠せない。

綱吉はもう諦めているらしく、エースにこうことなんだと小声で説明する。

弟綱吉は本当に出来が悪い子だった、文武に関してならばつきり言つて取り柄が無いとエースも思つてはいる。

しかしどう考へても胡散臭い赤ん坊に家庭教師つてどうなんだろうかルフィは面白い奴が好きだし、何とかなれば良いし何とかするという性格だから受け入れてるもののエースはそうはいかなかつた。

「一体お前は何なんだ、お前は」

エースはリボーンと名乗る赤ん坊の肩を持つとする
しかし

「ガフツ」

「エース！！」

「兄さん……」

ドンという音とともに感じる腹部への痛み

突然の事に驚くルフィと奈々。そして、やつぱりというような綱吉の目。

エースは運動能力は高いし、武道もかなり強かつた。なのにそのエースが赤ん坊に攻撃されるなんて考えられない

一体この餓鬼は何なんだ？

エースの疑問は大きく膨らむばかり

「ちょっと部屋に行くぞ」

どう考へても十数倍もあるエースを引きずりながらリボーンは綱吉の部屋に向かっていく。

「オレは殺し屋だ」

「は？」

「やっぱ、おめーおもしれーな」

リボーンの言葉にエースとルフィは正反対の反応をしつつ、リボーンを見つめる。

こんな赤ん坊が殺し屋なんてありえない。

それにこんな平凡な世界で一体殺し屋が弟に何の用なのだろうか？

「オレはポンゴレフアミリーのボス・ポンゴレ九世の依頼でお前をマフィアのボスに教育するために日本へ来た」

その言葉にエースは言葉を失い、ルフィもまた珍しく真剣な面持ちとなる。

聞いた事があった。もう一、三年前、この家に来る前に偶然聞いた言葉が「ボンゴレファミリー」

それが一体綱吉に何の用なのか

リボーンがやたらグロい写真を綱吉に見せつけ、それに綱吉が叫ぶがそんなの耳にも耳にも止まらなかつた。

「それで初代の血をひいているお前をボスにする事になつたんだ」「そんな話聞いたことねーぞ」

綱吉は聞いたこと無かつた理不尽な理由に異議を唱えるもリボーンは無視し、寝間着に着換える

可愛らしいおむつを付けているが絶対にそんなものはく年齢はではないだろと突つ込むのは野暮だ

じゃあ寝ると勝手に弟のベッドで寝ようとするリボーン
しかしこれだけは言いたい

「もし綱吉がボスになつたら綱吉は幸せになれるのか?」

「ルフィ兄さん?」

ルフィの真剣な問

それには綱吉も驚きを隠せない。いつも楽観的な兄ルフィが真剣に核心を突く問いをかけるなんてやつぱり何も変わっていないと喜ぶ自分の感情はひどいと思いつつも、エースは前世と変わらないルフィの姿に心の中で笑んだ。

「そんなもの、知らねーぞ。それはツナ次第だ」

「血筋で人の自由を奪つて良いって事かよ」

「そうだなと寝ころぶリボーン

この赤ん坊を殴りたい衝動に駆られつつ、エースは怖がりな綱吉の為にも自分を抑える。

前世ではサボは不幸のまま世界に殺され、ルフィも殺されかけた。

だからエースはたとえ生まれ変わっても自由に生きてこいつを思つし、弟にもそれを望んでいる。

それなのに綱吉が血筋の為にマフィアのボスにされかけているなんてあつてはならない。

「そんなもん、マフィアじゃ仕方ねーことだしお前達も同じだろ？
唯一ボンゴレと肩を並べたゴール・D・ロジャーの息子、『ゴール・D・エースと裏社会の革命家、モンキー・D・ダーランの息子、モンキー・D・ルフィ』

「！」

「ん？ 一体おれの父ちゃんが何やつたんだ？ どうか父ちゃんなんていただのか？」

自分に父親がいた事に驚くルフィと全く話についていけない綱吉をじり目にエースは大きなショックを受けていた。

何となく分かつていただけどそりではないようにと願つていた。

なぜ自分が前世と同じ名前なのか意味があるとしたらこの事なのだろつ。

自分は又も鬼の子でルフィも自由に生きる権利を親に奪われかける存在なのだと

「おれ達兄弟の自由は奪わせない」

エースはそう心に決める

そしてルフィとともにトラップを誤作動し、綱吉の部屋を黒い火にするのであった。

変な赤ん坊来る（後書き）

色々とおかしくて本当にすみません
一応兄弟の設定

ポートガス・D・エース

ツナが中一の時、高校三年生の17歳。前世の記憶があり、明るいが眞面目で自由に生きる事を目標にしており兄弟の自由を奪おうとしてるリボーンとは敵対してゐる個所がある。出来るだけ原作寄りのエースを目指してます。

モンキー・D・ルフィ

ツナが中一の時、中学三年生の15歳。エースと違い、前世の記憶がないが性格は変わら無かつたら良い。楽観主義でリボーンには割と寛大だがたまに核心を突く疑問を投げかける。

沢田綱吉

REBORNの主人公で原作通りの性格を目指してゐる。一人の事は「エース兄さん」「ルフィ兄さん」と呼んでゐる。

弟が変態になりました（前書き）

ルフィとシナメインでREBORN一話沿い。寒いギャグにルフィのキャラ崩壊してます。その上文章崩壊で短いです。

弟が変態になりました

エースいわく胡散臭い、綱吉いわく変なそしてルフィとしては面白い赤ん坊、リボーンが沢田家に来て一日の朝。

ルフィは昨日の事を半分以上忘れ、戦いの場に向かおうと意を決する。男は敷居をまたげば七人の敵ありということわざがあるがルフィとエースの場合、そうではない。

そう考えるとルフィとエースは男ではないのかも知れない。実際、怪獣あたりの可能性は十分にありそうだ。

「離せこの野郎！」

「これはおれのだ！－！」

「兄さん達……」

テーブルに乗り出し、互いのハムや卵を取りあう一人。これは本当に一般市民の朝食光景なのだろうか？

デパートのバーゲンセールよりも怖いと思つのはきっと綱吉だけじゃないだろう。

どうしてこの一人はそこまで血走らせながら飯を食つてているのだろう。

そこまでして飯を食べててくれるのは幸せだというかも知れないがちよつと怖すぎる。というかもう少し落ち着いて食べたらどうなのだろうか？

しかも末弟の綱吉の飯まで奪おうとしているのはいかがなもののか、あまりにも大人げないのでと思う方が異常なのか。

前世の癖が抜けないと言われたらそれまでだがちょっと酷い、そんなのだから綱吉はもやしつ子なのかも知れない。ルフィとエースは少し位反省すべきだ。

もうこの光景が10年以上続いている今それは不可能だろ？けど、しかしその光景もリボーンが来た事で変わる事となる。

「いただきだぞ」

「何するんだ！…」

「おれの飯返せ！…」

「リボーン、お前は泥棒かよ！…といつか何でうちの食卓はいつもこうなんだよ…」

一瞬のすきを突いてリボーンが一人の取り合ひでいたハムを奪い、モグモグと咀嚼する。余裕をぶつこく暴君リボーンを鬼の形相で睨みつけるルフィとエース。

実年齢は兎も角として、赤ん坊のくせにずいぶんと意地の悪い奴だ。家庭教師が家の中とは言えこんな泥棒まがいの事をやつて良いのかとても疑問であるが突つ込むのは綱吉だけである。

そしてたかが朝食のハム一つで長年の恨みのごとく見た目は可愛らしい赤ん坊を睨みつけるのはいかがなものなのか。

奈々は「あらあら」とにっこりとその光景を笑つてみでているだけで何一つ止めようとしやしない。彼女は世界が滅ぶ日も「あらあら」で笑つていそうでとても恐ろしい。

朝食と書いて内乱が終わり、学校へ向かう。本来なら部活があるルフィとエースが綱吉と一緒に行くといつ事は殆どないのだが今日は休みらしく、一緒にに行く。

「ルフィ先輩とエース先輩だ」

「本当にすごい兄弟だよね」

通学途中、聞こえてくる声。

運動能力が非常に高い二人はスポーツに關しては全国区で並盛中学でも有名で卒業して3年近くたっている今でもエースを覚えている人は多い。

そんな兄を誇りに思いつつも、自分の駄目さを思い知らされるが綱吉の場合はそれを気に病む事は一切ない。

どうせ自分はだめ、兄達とは全く違うのだ。

負け犬根性に関しては他の追随を許さない綱吉にとって彼らの事で嫌なのは恐ろしい食い意地と大食らいな事だ。現在進行中で特大重箱を手に通学している彼らと離れたい、一体どこへ行くのだろうと、いう目で見られるのは大分恥ずかしい。まあ、綱吉も下着一丁で走っているのだから恥ずかしい存在となるのだが、ここはスルーしよう。

「じゃあ、おれはここまでだ」

「おう！…」

「エース兄さんも頑張つてね」

並盛中学の校門前で高校生であるエースと別れ、ルフィとエースも又各学年の下駄箱に向かう。はずだつたのだが

「パンツ男の登場だ！！パンツ一丁で告白したんだってな！？」

「へんたーい」

「道場で持田先輩がお待ちかねだ」

弟綱吉は突如來た一、二年生の後輩に担がれ、泣きわれてしまつた。ここで前世の世界なら助けに行こうとするのだが世界が違うと対応も違うというか違わなかつたら痛いだけだ。

それに弟は自分達と違つて人に恨まれる事はしないし、しつかりしている所はしつかりしているのだからやたら心配してもただのおせつかいだ。

しかし、今弟の事を何て言つたのか？確かにパンツ男と言つた。

氣の弱い綱吉がそうなるとは思えない。という事は

「ししあつ、あいつも氣が強くなつたな。男になつたな！！」
にんまりと笑うが絶対にそれは違う。前世では確かにフランキーという変態がいたが現代にてその常識で大丈夫なのだろうか？他人事

ながらとても心配である。

奈々はどんな躰をしたのか、そしてこんな兄なのに良く常識人でいたものだと綱吉に感心する。

変態と化した弟の退化ではない、成長に喜びつつ、ルフィは下駄箱に向かい歩く。

しかし多くの一、二年生が決闘を見に行こうと剣道場に向かい、剣道部も胴着を着て歩きまわっているのだ。ルフィがそれを目にすること可能性は非常に高い事はすぐに理解できる。

鎧類が好きなルフィが甲冑に似た胴着を着た人達が沢山ある場所に向かつていたらどんな反応をするのか。

「うつひよー、格好良い格好をした奴らがたくさん集まってる！－」
こんな感じであつた。星が出るくらいに顔を輝かせ、口裂け女のごとく口角を上げる彼はきっと妖怪だ。

ルフィの精神年齢はおそらく並盛七不思議の一つに選ばれているだろ？。

沢山の胴着姿を見る事なんて剣道部に入つて無ければほとんどない。ルフィは剣道が出来ないし、剣道自体には興味無いので入つてなく、こんな光景は仮入部の勧誘以来。

ルフィが嬉々として剣道場に向かう。そこである意味凄惨な光景を見るのは思わず見

「スゲエー！勝ちやがった！－」

ルフィが入ると起こつた歓声、そして弟である綱吉に集まる後輩達。徹底的なまでの卑怯を働いたうえ、いたいけ且つ可憐な美少女 笹川京子を商品として扱おうとした先輩というのも恥ずかしい持田の髪の毛を全てとつた事で勝利を収めたのだ。

駄目ツナ対剣道部主将の対決なんて目に見えていた事、そして持田がどうしようもない下種で馬鹿な事と相まって誰しもが綱吉のもとを集まつていく。

いくら六月とは言え、髪の毛を手で引き抜かれてスキンヘッドにされた持田の事は一切心配しない。人間の醜さを垣間見たような気がする。

そして当の綱吉は「あいつ言う事もやる事むちやくちやだけど、あいつがいなかつたらこんな事ありえなかつた」と勝手にベッドに寝た昨日の横暴を忘れ、これから起こる自宅爆破事件の事も予測できずリボーンに感謝する。自分が持田にやつた横暴をすっかり忘れてこの茶髪サイヤ人末恐ろしいかもしれない。

「何やつてるんだよ！…」

皆が歡喜に沸きあがり、誰も突つ込まない異様な空氣に怒りの声が上がる。

その主はルフイ。

普段樂観的で細かい事を気にしないルフイがこれだけ怒るなんてなんだろうか？

まさかとは思うが持田を労れと意見するのだろうが？それなら意外と紳士的だ。

しかし世の中格差というものは必然であり、下種には世の中味方しないもの。人間は清く正しく生きる真面目かつ努力した人と運が良い人にしか味方はしない。

「何で皆で祝つてるのに歌つたりしないんだよ！？」

おかしそぎる、この男。

いちいちお祝いするのに歌うのは常なのか、今まで誰も彼を注意しなかつたのだろうか？

歌が好きなのは良いが大分ずれているこのお方をビリしたら良いのか、それはだれにも分からない。

「ハゲのおつさんも一緒に歌おうぜ！…」

「おっさんじやなくて持田先輩だから！！」

さすがルフィ、声や顔を見れば年齢なんて分かるであろうに持田を年寄り扱いし、歌おうと手を差し伸べる。

視力も聴力も良いのにどうして分からぬのか謎すぎる。天然という事でするしかない。

持田にやつた暴虐をすっかり忘れた綱吉にすら突っ込まれるなんて大したものである。

リボーンが来て一日目の朝、リボーンは人々に感動と疑問を与えた。彼がこの先どのような事をするのかは誰にも分からぬ。

弟が変態になりました（後書き）

本当に色々な意味で申し訳なさります。

ルフィのキャラクター崩壊し過ぎですし、文章短いし、説明的ですね。

勉強してはいるのですがなかなか難しいです。これからもっと頑張りたいです。

もっと状況がリアルに思い浮かぶ長い文を書けるよう頑張ります。このシリーズは完全日常編で黒曜編、ヴァリアー編、未来編等はやるとしたら別連載にしたいと思います。バトルはシリアルズです。未来編はやるとしたらかなりねつ造と改変しちゃいます。勝手にワンピースキャラの属性とかも作っちゃいます。

初めての友はダイナマイト少年（前書き）

ずいぶん間が相手申し訳ありません。
こんなに遅くても読んでいてくださる方がいれば光栄です。
すが獄寺登場です。 駄文で

初めての友はダイナマイト少年

ポートガス・D・エースは知っていた。

数日前の事だつた。その日は友達との付き合いで帰宅が遅くなり、一人小走りで帰路を急いでいた。

大らかで細かい事を気にしない奈々が起こるとは思えないし、末弟の綱吉も今年でもう13歳だ。自分一人夜遅くに帰つても別に気にしないし問題があるとは考えられない。

いくら危険な世の中とはいえ、辻斬りが来るわけでもないし、口笛を吹いても泥棒は来ない。泥棒はいついかなる時でも来る時は来るのだ。

だが夫である家光の都合でまだ20歳、しかも身重の身だつたのに二人も子供を押しつけられた彼女の苦労を良く知つてているエースにとつては彼女に迷惑をかけるなんてしたくはない。

前世で自分が彼女と同じ年の頃、どれだけ迷惑をかけたのか良く覚えているからなおさらである。自分がもし一人の子供を押しつけられてちゃんと育てられるのかなんて問われたら絶対にこう答えるだろう。

子供なんて育てられるかと。

そして何より、綱吉がリボーンとかいう赤ん坊に何をされるのか、とても心配だ。

人のハムを奪つた上にそれだけでは飽き足らず、夕飯の肉まで奪つていく糞赤ん坊という事はどうでも良い。人の楽しみである食事を奪つた時点で本来は万死に値する行為であるがリボーンの傍若無人ぶりはそれだけは飽き足らず、綱吉の部屋を勝手に占拠し、武器を仕込んで爆発させ、気に入らない事があれば殴る。

人の家を勝手に壊す事も気に入らないが、そんな事直せば良いだけなのでどうでも良い。

良く無いよ、何時の日か沢田家破産するぞと突つ込むのは野暮である。フードファイターなルフィとエースがいる時点で実はかなりの金持ちなので多少の事では気にしてはいけないのだ。

末弟綱吉の金銭感覚はどうなんだというのは、この際無視していたこう。

しかし、綱吉に迷惑をかける上に理不尽な暴力を振るうのは許せない。弟を困らせ、泣かせる奴はどんな理由でも許さないし、そんな奴らを今まで成敗してきた。

大切な人の為ならたとえ火の中水の中とこうのを本当にできるのがエース。

そんなリボーンの面白いという理由での綱吉への遊びではなく厳しいしじきを許せるわけもなく、綱吉をリボーンから守るためにも、早く帰宅したかった。

綱吉がリボーンにひどい目にあつて無いか、奈々さんは心配してないのかそんな事ばかり考えていたのが悪かったのだろうか。エースは前を歩いている少年に気付かなかつた。

強い衝撃と目の前で尻もちをつく少年、エースは少年にぶつかつてしまつたのだ。

ぶつかつた個所が痛いらしく少年は顔を少しづがめつつ、声を殺して呻いている。長身の類に入るエースが全速力でぶつかつてきたのだから、仕方ないだろう。

エースも又、すぐそれに気が付き少年の方を見て声をかける。

「悪い！！大丈夫か！？」

「いつてー、気をつけるよ！！」

エースを睨む眼差し。髪の毛の色は銀色で体に身につけているシルバー・アクセサリーとえた煙草。見るだけで不良と分かる見た目。身長もわりと高く、声変りもしているようだが制服や感じから言つ

て中学生だろう。

最近の不良は怖いから気をつけてねと奈々も言っているが、それなりに腕が立つエースにとつて田の前の少年が銃を持っていない限り対処が出来る自信があり怖氣づく気は一切なかつた。

「悪い悪い、気をつけるよ。怪我無いか？」

「ねえよ、ありがとつよ」「みづ

見た目と内面は一致しないと良く言うがこの事かもしぬれない。少年はエースの詫びをすんなりと受け入れるだけではなく礼まで言つて去つていつた。

意外と真面目で誠意がある少年だ。

エースは少し関心をしつつも、大して気にせず再び帰路を急ぐのであつた。

モンキー・D・ルフィは知つていた。

バレーの試合の日、ルール違反をしそうという理由で選手からはずされた猿少年、ルフィは部活に行こうとしていた。

学校なんて運動と食事と昼寝をするところだと思っている彼は足を弾ませ走つていた。学生の本業は一体どこにあるのか、こんなので人生大丈夫なのか他人事ながらとても不安である。

ルフィには地獄から来た魔人か某青狸が出るアニメに出るガキ大将の母ちゃんが必要かもしれない。それか頭の中を一度破壊でもしない限り、常識は覆らないだろう。

ルフィにとつては今やりたい事を思いつきり後悔なくやる事が大切で勉強をやつしている暇などない。やる為に時間を空けろと言われるかもしぬないがそれはやりたくなかった。

もし自分のやりたい事を勉強するために中途半端にやり残して死んだのならきっとあの世でくいが残る。

くいの無いように生きる事、それが幼いころから決めていた事なの

だから。

前世の記憶はもう無いけれど心に刻まれた志はたとえ何回六道輪廻を廻ろうとも滅びはしない。縦の世界はどこまでも続く、人の意志と空が続く限り。

大それた意志を抱く猿、ルフィはウキウキしながら部活に急いでいたがその足もある少年によつて止められる事になる。
人の恋路を邪魔するものは馬に蹴り殺されると言うが人の楽しみを邪魔するものは取りにつつかれ殺されるとのことわざは無いものだろうか。あつたらあつたで恐ろしそぎてひかれるだけだが

「おい、そこの野郎！..」

「ん? 何だ、爺さん」

「爺さんって……」

ルフィの視力と聴力はどこにかいかれていると前に述べたが本当にいかれているかもしれない。銀髪だという理由だけでどう見ても少年を爺さん呼びするとは恐ろしすぎる。

前回もだがこんなに髪の毛がふさふさして肌がつやつやな爺がいたらびつくりである、研究者たちが殺到してしまつかかもしれない。この先の世界に大きく貢献するという点では喜ばしい事かもしれないが。

見るからに不良である銀髪少年はその言葉に青筋を立て、ルフィを見みつける。

しかし、ルフィにそんな事気づくわけもなく、どうしたんだよと少年に笑いかけている。大物なのか空気が読めないのかは各自の判断に任せたいと思う。

「体育館は何処なんだ?」

「そんなもん、あつちに決まってるだろ。馬鹿だなー」

はたまた余計な事を言うルフィだが今回は彼に落ち度はないだろう。

転校生なら一応誰かがついて教えてくれるし、部外者が校内に入るなんて考える事は無いし、入ってきたら変質者として捕まってしまうのだから。

ただでさえ目つきの悪い目をもつと鋭くさせ、爺の「」とく眉間にしわを寄せつゝも少年は体育館へ向かっていった。

ボンゴレ十代目の見定めをするために。

「ああ、よろしくな」

「「」の前の奴か、よろしく！..」

エースはあまりの出来ごとに目を丸くし、ルフィは気にしない様子で笑つて挨拶をしている。そして綱吉は死んだ魚の眼のようになつて三人の姿を見つめている。

一体彼の態度の豹変は何なのだろう、本当に本人なのだろうかと。

「これから沢田さんの右腕となる獄寺隼人と申します。お母様にお兄様、よろしくお願ひします」

正座に三つ指、とても礼儀正しくてよろしい事だ。右腕とかちよつとあつちの世界的だけど。

それは、今は良いのだ、今は彼がこの前であつた少年と同一人物なのか確かめることが先だ。

エースとしては人間ちょっとした事で変わることを知つていて。

自分は海賊だつた前世ではエドワード・ニューゲートに最初はひどすぎる態度を取つていた。思い出すたびに恥ずかしくなつてくるし、オヤジには申し訳ない事をした。

だからその類なのだろうとは思つが、顔を緩め敬語を操る態度を見ると変わりすぎだと突つ込みたくなる。

「獄寺だつけ？この前おれとぶつかつたよな？」

ひきつる顔を何とか笑顔に直し、獄寺に尋ねてみる。別人でも本人でもどつちでも良いはずなのに何故か別人を願つてしまつ。

別にあの根は善良な不良に何か感情を抱いたわけでもないし、彼は悪い事した訳でもない筈なのだが

「まさか、あの男のからですか！？申し訳ありません！！」

「いや、別にかまわないから大丈夫だぞ」

どうやら本人だったようだ。銀髪でアクセサリーをたくさんつけた不良中学生なんてめつたやたらといないのは分かつていたのだが。申し訳ないと高速で土下座する獄寺をなだめつつも、どう反応して良いのか悩む。

このギャップは何だ？漫才の一種にすら見えてしまう。

ここまで一面性がある人間も少数だろう。自分でもここまで一面性は無い。

綱吉も疲れているらしく、顔色が若干悪い。ちょっと心配になつてくる。

笑っているルフィがちょっと異常にすら見えてくる。一体弟は何を考えているのか。

「良かつたな、綱吉にも友達が出来たんだな！！」

ルフィは大喜びで綱吉に声をかける。その顔はとてもうれしそうで本心からの発言だというのが良く分かる。

綱吉に友達が出来た。それがルフィにとつてとてもうれしい事か。綱吉には13年間友人がいなく、遊ぶのは一人か兄とその友達くらいだった。友達がいなきや寂しくてたまらないし、人生も楽しく無い。

そう思つてゐるルフィにとつて、それはとても悲しい事で諦めている綱吉に何度も友達を作れと言つていた。

どんな友達だろうと構わない、友達が出来たのだから。

そう思つて獄寺に不安を抱いていたはずのエースまで今までの事なんてどうでも良いのではないか、受け入れようという気持ちになつてくる。

綱吉の友達を喜ぼうといつも話題に終わると思つたその時。

「うわーーー！ 蛾が来た！！」

突然震えながら逃げる綱吉と茶色い飛行物体。綱吉が言つた通り、蛾が家に来てしまつたようだ。

蛾が嫌いな綱吉は怖がつて逃げだす始末、それを見ていつものように蛾を退治しようとしたルフィとエースが動き出した時。

「オレに任せてくださいーーー！」

誇らしげな顔で蛾の前に立ちはだかる男、獄寺隼人。蛾じゃなかつたらとも格好良い。

そんなくだらない事を考えている間に取りだしたのは何とダイナマイト。

なぜそんな物を持つているのか、中学生という事を抜いても違法だろ？ というか沢田家を破壊する気か、そして自分達を殺す気か。突っ込みどころがありすぎて突っ込みきれない「ついにダイナマイトが投げられ、そして

爆音とともに家の一部が破壊される。

さすがのルフィもびっくりして目を丸くしている。並盛町の住人ではかなりまともな位置なのかもしれない。

この男は何をしたいのか、やりましたよといつ何かを達成したような笑顔がとても腹が立つ。

「獄寺はダイナマイトを至る所に隠し持つてゐる人間爆撃機なんだ」ボムボムの実の能力者かよと突っ込みたい衝動に耐えつつ、獄寺を見つめる。

悪意は一切無いのは分かるが一体彼は何なのか。家を破壊してどうするつもりなのか。

そしてこの糞赤ん坊は何でこんなに動搖してないのか、首締めたい

と思つたのはここだけの話である。

「十代目の右腕になるために頑張ります！！」
良い事をしたと勘違ひしきつた獄寺が失神した綱吉に向かい、笑顔
で決意を語る。

その前にやる事があるのに全く持つて気付いていない。
蛾を退治するために家を破壊する必要があるのか、そしてこれらを
どうしてくれのか、掃除をどうするのか。

一言言うなら迷惑極まりない

綱吉の友達もとても心配になつてきただースであった。

初めての友はダイナマイト少年（後書き）

恥ずかしすぎる駄文申し訳ありません。

そろそろ兄弟の関係強調との二人に死ぬ気弾発覚させたいです。
日々精進頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7598m/>

【ONE PIECE】末弟がマフィアのボスにされかけました【REBORN】

2010年10月19日22時28分発行